



今回の児童・生徒のコーナーは、光中の生徒の作品を紹介します。

(敬称略)



3年 吉田理恵

季節をみつめて

一年じゅうで一番好きな月といえば、二月である。雪がしんしんと降り積もり、世の中全部がまっ白で心の悩みもきれいに拭い去られてしまうような気がするからである。

次に好きなのは早春のころである。冬、土に埋もれていた草や花が顔を出し、だんだんとつぼみのふくらんでいくその姿はなんとも愛らしくどんな花が咲くのを楽しみだから好きだ。



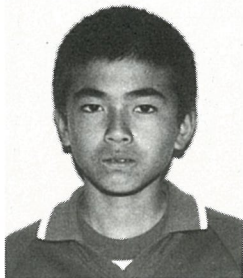
季節をみつめて



3年 大木恵久

一年じゅうで一番好きな月といえば、四月である。自分の生まれた月だということもあるが、なによりも、迎り一面が明るくなるような気がする。暗くてじめじめして、色でいえば茶色のような冬が終わり、日一日と春に近づいてくる様子がわかるのが、楽しく、うれしくなる。

次に好きなのは、夏休みが終わり、ようやく涼しくなってくる秋の初めころである。前の意味と少し似ているが、蒸し暑い夏に飽きてきた頃、夜になると夏の終わりを知らせるような涼しい風が吹き、虫たちも歌い始める。夏休みの浮かれた気持ちを、そっと落ちつかせてくれるような、そんな涼しさが好きだ。



2年 齊藤基樹

水彩画  
題 古文書



期間中、役場、指定水道工事店及び水道企業団でじゃ口のケレップ(コマパッキン)を無償配付しますので、ご使用ください。

水道週間 6月1日~7日

ひかり歌壇

餌を撒くや尺余の緋鯉群がりて  
大木静波子  
春水いよよ光湛ふる

春の雨降れる宵なり独り居の  
山崎平八郎  
炬燵に友の訪れを待つ

ほんのりと裸木に彩のにじみ出て  
伊藤 定男  
春の息吹きに木木は目覚むる

娘の姑ははの宿痾をせめて慰むと  
藤代 敏子  
野にうづくまり餅草を摘む

亡母の齡越えて生きると思はねど  
越川 雪枝  
形見の羽織り仕立て直しぬ

八方に樹勢たくまし七百年  
青柳 フミ  
八丈蘇鉄の赤き実拾ふ

花嫁と上座に着きて面はゆし  
伊藤 鏡子  
母の形見の江戸褌を着て

春来ぬと告げてみ祖に先づ供ふ  
竹内 紀葉  
色香したしき蓬の餅を